

令和元年度第5回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

■日 時 令和元年11月27日（水） 18時～20時15分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数の19名に対して10名が出席しており会議は成立。

2 開会のあいさつ

(会長)

来年に向けたKPI等の変更事項について、市から説明をいただき委員の皆さんの意見を伺い、それを計画に反映するという事に繋がる貴重な場である。ぜひ活発な意見をお願いしたい。

3 議事

(1) 協議事項

まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂（案）について

(説明：SDGs地域戦略推進室)

(委員)

先ほどの説明の中でSDGsは世界共通の記号という話であったが、インターネットで検索すればSDGsの取組とはどういったものがあるか記載されているか。

(事務局)

SDGsは国連で全会一致で採択され、全世界で取り組んでいくものである。

インターネットで検索していただければ、内閣府や外務省等のホームページでSDGsに関する様々な情報や取組が紹介されている。今後SDGsの理解を深めていただくための資料として、どのような取組が必要で、日本でどういう現状にあるか等をわかりやすく示していきたい。

(委員)

総合戦略のSDGsの位置付けで、例えばNo.17「パートナーシップで目標を達成しよう」に該当しているものは、そういうスローガンを元に取り組んでいるプログラムと理解して良いか。ボランティア活動をしたいという方がこの目標に位置付いていることを目印に申し込みするといったことは可能なのか。

(事務局)

No.17「パートナーシップで目標を達成しよう」とは、自治体だけではなく、住民や企業等の様々な団体と連携を図りながら、多様な取組を進めていこうとするものである。この総合戦略のSDGsの位置付けで印が付いているものは、自治体に限らない様々な団体と連携して取り組んでいる事業を指しており、ボランティア等を募るとい

ったことを表しているものではない。

今回は総合戦略を1年延長するための改訂であり、これまで取り組んできた事業にSDGsの目標を結び付けたものである。

(委員)

総合戦略のSDGsの位置付けを見れば、どのプロジェクトがどの目標に向かっていくものかわかると考えて良いか。

(事務局)

そのとおりである。ただし、国や自治体において17の全ての目標に均等に取組むというのは非常に難しい。石巻市で力を入れて取り組むことは何か、どの目標に向かって取り組むのかということを明確にしていきたい。

(会長)

民間企業もSDGsについて積極的に学び、自分たちはSDGsの達成のために、何ができるかということを明確にしていかなければならないと思う。

(事務局)

SDGsには17の目標、169のターゲット、232の指標があり、より詳細にどういったことを解決していけば良いかが示されている。これらをわかりやすい形で示していければと思っている。

(委員)

SDGsについて、知らない市民が非常に多い。SDGsのポスターを市民の目に触れるところに設置したり、市民も一緒に勉強する機会を設けたりしていただければ良いのではないか。

総合戦略のSDGsの位置付けを見ると、No.5「ジェンダー平等を実現しよう」に該当しているものが少ないことが気になった。石巻市はジェンダーの取組が進んでいるから少ないということであれば良いのだが、まだまだ課題も多数あると思うので女性の声等に耳を傾け、SDGsの達成に向け頑張っ取り組んで欲しい。

(事務局)

市民へ広くSDGsを周知することは非常に大切だと思っている。今年4月にSDGs地域戦略推進室を立ち上げ、今年度は市職員に対するSDGsの研修を行った。現在はSDGs未来都市の提案に向け準備を進めている。来年4月以降は市民向けセミナーの開催をはじめ、市民への周知活動を行っていきたい。

政界への女性の進出について日本は193か国中158位である等、世界的に見て日本自体がジェンダー平等の水準が低い状態にある。そのことから石巻市としても、ジェンダー問題解決に向けて取組を進めていかなければならないと認識している。

SDGsの目標について、例えばNo.2「飢餓をゼロに」は日本国内で見れば飢餓に苦しむ人は多くないと思われるが、飢餓と反対にフードロスが起きる等の食糧問題が発生している。そのため、SDGsを切り口に地域で起こっている様々な課題を地域の実情

に応じた手段で解決するよう考えていく必要がある。

(委員)

総合戦略のSDGsの位置付けには、No.11「住み続けられるまちづくりを」に該当している項目が非常に多い。東日本大震災からの復興に関係していると思うが、今後毎年SDGsの目標の位置付け等の見直しをしていくのか。石巻市は水産業が盛んであると思うので、No.14「海の豊かさを守ろう」等、石巻らしさが必要になるのではないかと思う。

(事務局)

今回お示ししたのは1年延長に伴う改訂であり、これまでの取組がSDGsのどの目標に結びつくのかを明確に示すためである。

今現在、令和3年度から始まる10年間の総合計画の策定に向け検討を進めている。これまでは震災からの復興を最優先に各事業を進めてきたが、これからについては市民の声を聞きながらどういったまちにしていくか、そのためにはどういった取組が必要かを考えていかなければならない。SDGs未来都市も10年後を意識した取組を示すことになるので、それが新しい総合計画の柱の一つになるであろう。

(会長)

行政が進める仕事は単年で結果が出るものは少なく、結果が現れるまでに3年や5年の期間を要するものが多い。そういった項目は中長期の目線で考えていくことが必要である。

(事務局)

石巻市としては、総合計画と総合戦略を一体的に策定することとしているが、総合戦略をなくすということではない。総合計画は総合戦略を取り込む形で策定し、2060年に人口10万人を維持するという目標はこれまで同様掲げ、転出する人口の抑制、交流人口の拡大を図ることによる移住定住の促進など人口減少対策に資する取組を計画の中に位置付け、数値目標を定めて、委員の方に検証していただき、評価結果を参考にしながら5年単位で計画を見直ししていく予定である。

(委員)

先ほど話にあがったSDGs未来都市とは何か。

(事務局)

地球環境の保全に資する取組等のSDGsのモデルとなるような事業を行っている自治体をSDGs未来都市として選定するという国が行っている。2018年度、2019年度でそれぞれ約30自治体がSDGs未来都市に選定され、来年の2020年度もSDGs未来都市の選定が行われる予定である。選定されるには、先進的で他の自治体の参考となるような取組かつ、経済・社会・環境の3側面のバランスが取れた取組であることが求められる。

(会長)

SDGs の取組は国に選定されたから実施する、選定されなかったから実施しないというものではない。もちろん国の選定を受けることが弾みになることは間違いないと思うが、そういったことに左右されず取り組んでいってほしい。

(事務局)

御指摘のとおり、SDGs 未来都市に選定される選定されないに関わらず、10年後の石巻を見据えて様々な取組を進めていかなければならない。

(副会長)

先日の台風19号をはじめ多数の自然災害が起きる中、安心して住み続けられるまちとはどのようなものだろうと考えてみた。今回の改訂ではなく次の計画への提案となるが、震災からの復興が完了し、様々な自然災害が起きる中でそれらに対応できるまちを示すことが必要であると思う。

(事務局)

現在、雨水対策として1400億円を超える事業費をかけて新たなポンプ場11か所の整備など雨水環境への対策を講じることとしている。完成するまでは、仮設の排水ポンプで対応している状況であるが、台風19号の被害状況を踏まえ、ポンプ場の増設が必要かどうかの検討をしている段階である。復興事業により災害に強いまちづくりを進めているが、気候によっては想定以上の雨量となることもあると思う。今回の災害の対応も踏まえながらできるだけ市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりをしていく。

(副会長)

石巻市は安心安全なまちづくりを進めているのに、なかなかその情報が伝わってこない。もっと外に向けて情報発信していった方が良いと思う。

(事務局)

今、市がどういうことを進めているかについて、市民へ発信していくことは非常に重要だと思っており、全庁的により積極的に情報発信していく必要があると思う。

(委員)

災害が発生した際に迅速に被災者への支援を打ち出してもらえれば、それが安心感に繋がる一つの方法であると思う。

(事務局)

台風19号の際も国が打ち出すよりも先に市として支援に踏み込んだ項目もある。今後もそういった意識を持って、対応していく必要があると感じている。

(委員)

石巻市は市民に向けた情報発信が弱いように感じている。市の取組の情報発信の手法に今時のものを取り入れるなど工夫が必要なのではないか。

また、市役所本庁舎は2階から市役所機能となっており担当もそれぞれに分かれて

いるため、利用するのが難しい。できればコンシェルジュのような、案内をしてくれる人を置いてほしい。蛇田支所には入口に案内役の人がいてくれるので、非常に利用しやすい。

(事務局)

行政としての広報は全世代の方に見ていただけるような手法を取る必要がある。市報は紙媒体で配布しているが、インターネットやフェイスブックなど使えるものを活用しながら情報発信の手法を考えていく必要がある。

(委員)

石巻市で生活を送っていて思ったことを3点挙げさせていただく。1点目として、石巻市は出産費用が他市町と比べると高いので、産婦人科との連携を取ってほしい。2点目として、子どもの教育として海や山などの自然に触れるような内容のものを充実させてほしい。3点目は災害に強いまちづくりを進めてほしい。まちとしての整備が進んだ結果、コンクリートで埋め立てられて前より冠水しやすくなったような所もあると思う。

まちづくりについて、先ほど未来都市という話もあったが、今の子どもたちが生活しやすい環境になるよう、未来を見据えて取り組んでもらいたい。

(事務局)

1、2点目は総合戦略の基本目標4に関わる内容だと思うが、1点目については、実態を把握して軽減策を講じるべきかどうか検討する必要がある、2点目については、学校教育も合わせて検討していく必要がある。3点目について、自然災害の対策についてもまずは実態を調査し、必要に応じて対策を検討する必要がある。市民の皆さんの声を聞きながら、ハード事業も進めていきたい。

(委員)

山間の教育について必要性を感じているお母さんも多い。子どもたちにどのような環境を残していくかという視点も必要になってくるので、環境問題やその対策について考えていければ良いと思う。また、総合戦略は大人目線で作られており、あまり子どもの姿が見えるような文言が入っていないと感じる。子どもたちの声を取り入れていくことが未来発想の共鳴社会を作っていく一助になると思うので、ぜひそのあたりも考えてもらいたい。

(事務局)

子育てする方への支援は非常に大事だと考えている。今回の改訂にあたり国が担う役割に、国として子育て環境の充実を図り少子化対策を進めるために自治体間の競争にならないように支援策を講じてもらいたい旨を追記した。その中で市として独自の施策を進めていきたい。総合計画の策定にあたり、未来を担う若者のワークショップを開催することとしており、子どもたちの声を生かしていきたいと考えている。

(2) 報告事項

学生向け意識・希望調査結果について（説明：SDGs地域戦略推進室）

(委員)

高校生の就職・就業先が市外の理由で、「就職したい業種・職種・雇用形態の求人がない」が最多だが、高校生がどういった業種を望んでいるのか知りたい。

(委員)

就職説明会に参加すると、サービス業や介護関係のブースに聞きに来る人が非常に少ないと感じる。予想ではあるが、どんな職業があるか高校生も学校の先生も知らないのではないかと。市内のほとんどの高校でアルバイトを禁止しており、昔のように高校生が職業を知る機会が失われてしまっているのではないかとと思う。

(委員)

地元の建設業の方は工業高校と連携を取り、人材確保をしていると聞くが、学校の先生があまり職業を知らないことにより企業や生徒の就職に関するニーズ把握が十分にできず、その結果、企業と学校間のミスマッチが起きているのではないかとと思う。企業と学校の間にはコンシェルジュのような人がいれば、ミスマッチ等が今より防げるかもしれない。

(委員)

大学ではキャリア教育という科目を設置し、どういう職に就いてどういう生き方をするかについて1年生から学び、2、3年生では履歴書の書き方から自己紹介の仕方、他者とのコミュニケーションの取り方まで学べる。高校でもそういったキャリア教育を皆が受けられる環境が整えられれば良いと思う。

大学4年生になると大人からの支援を受けるというより、友人らと自分達で課題等を議論し自発的に就職に向けて行動している。高校生が大学生と同じように取り組むことは難しいかもしれないが、授業の中で人格形成のような内容があれば良いと思う。

(委員)

ビジネスコンテストで、地域の仕事を知る機会が非常に少ないという話を聞いた。北海道のある町で小学校から高校生まで一貫してキャリア教育を実施しており、中学校の修学旅行では自分たちで選んだ商品を売るということを行っているという話を聞いたことがある。

(会長)

親が子どもに仕事についてどのように話しているかにより、子どもの将来の選択に大きな影響を与えていると思う。また全国的な問題ではあるが、子どもたちに人気の職業がユーチューバーとなるなど、マスコミによる影響も大きい。

(委員)

大人が楽しく働いている姿を子どもたちに見せていくこともとても重要だと感じて

いる。

学生アンケート結果について、大学生になると高校生よりも子育てに近くなる年代だと思うが、石巻専修大学の回答者を見ると女性が非常に少なく、それが影響して高校生よりも子育てに関する意見が少なくなっているのではないかと思う。そのため、女子大学生の意見を聞く機会が別個にあっても良いのではないかと感じた。

4 その他

特になし

5 閉会のあいさつ

(副会長)

本日もありがとうございました。色々な話ができるようになってきたと感じている。今年度の会議も残り少ないが引き続きよろしくお願ひしたい。

6 閉会

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿

(令和元年11月27日)

No.	氏 名	所 属	備考
1	安 住 栄 一 <small>あ ずみ えい いち</small>	牡鹿地区住民代表	欠席
2	阿 部 紀代子 <small>あ べ きよこ</small>	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	副会長 出席
3	相 澤 友 子 <small>あい さわ とも こ</small>	いしのまき農業協同組合	出席
4	荒 木 裕 美 <small>あらか き ひろ み</small>	特定非営利活動法人ベビースマイル石巻	出席
5	大 浪 茂 <small>おお なみ しげる</small>	河北地区住民代表	欠席
6	井 深 修 一 <small>い ぶか しゅう いち</small>	七十七銀行石巻支店 (代理：齋藤様)	出席
7	木 村 美保子 <small>き むら みほこ</small>	いしのまきNPOセンター	出席
8	後 藤 宗 徳 <small>ご とう むね のり</small>	石巻観光協会	会長 出席
9	西 條 拓 也 <small>さい じょう たく や</small>	いしのまき農業協同組合	出席
10	佐 藤 清 子 <small>さ とう せい こ</small>	河南地区住民代表	欠席
11	佐 藤 尚 美 <small>さ とう なお み</small>	北上地区住民代表	出席
12	品 野 光一郎 <small>しな の こういちろう</small>	宮城県漁業協同組合	欠席
13	庄 子 真 岐 <small>しょう じ ま き</small>	石巻専修大学	欠席
14	畑 山 實 <small>はた やま みのる</small>	日本労働組合総連合会宮城県連合会石巻地域協議会	欠席
15	高 橋 真由美 <small>たか はし ま ゆ み</small>	雄勝地区住民代表	欠席
16	中 川 尚 仙 <small>なか がわ なお のり</small>	石巻商工会議所	欠席
17	永 澤 貞 代 <small>なが さわ さだ よ</small>	桃生地区住民代表	出席
18	芳 賀 信 幸 <small>は が のぶ ゆき</small>	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
19	三 浦 と 基 工 <small>み うら と き え</small>	石巻市地域婦人団体連絡協議会	欠席